

問題79 反復性肩関節脱臼で誤っているのはどれか。

1. 男性に多い。
2. 前方脱臼が多い。
3. 外転外旋位で不安感がある。
4. 関節唇損傷を伴うことが多い。
5. ドロップアームサインが陽性である。

問題80 骨粗鬆症の成因で誤っているのはどれか。

1. 閉 経
2. 慢性腎不全
3. 男性ホルモンの投与
4. 過度のアルコール摂取
5. 副腎皮質ホルモンの投与

問題81 変形性膝関節症で誤っているのはどれか。

1. 中高年の女性に多い。
2. 日本人では内反型が多い。
3. 動き始めの疼痛が特徴である。
4. 明らかな原因のない一次性が多い。
5. 進行すると脛骨が大腿に対して内旋変形する。

問題82 幼児期に好発する骨端症はどれか。2つ選べ。

1. Perthes(ペルテス)病
2. Osgood(オスグッド)病
3. Kienböck(キーンベック)病
4. 第1 Köhler(ケーラー)病
5. Scheuermann(ショイエルマン)病

問題83 骨折、脱臼と合併症の組合せで正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 肩関節前方脱臼——筋皮神経麻痺
2. 上腕骨顆上骨折——正中神経麻痺
3. 股関節後方脱臼——坐骨神経麻痺
4. 大腿骨骨折——大腿神経麻痺
5. 脛骨骨折——脛骨神経麻痺

問題84 脊椎圧迫骨折の好発部位はどれか。2つ選べ。

1. 第5頸椎
2. 第3胸椎
3. 第12胸椎
4. 第1腰椎
5. 第5腰椎

問題85 絞扼性神経障害と症状の組合せで誤っているのはどれか。

1. 肘部管症候群——母指内転障害
2. Guyon(ギヨン)管症候群——手背尺側のしびれ
3. 手根管症候群——母指対立障害
4. 梨状筋症候群——大腿部後面の痛み
5. 足根管症候群——足底のしびれ

問題86 末梢神経麻痺の症候で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 痙縮
2. 筋萎縮
3. 病的反射
4. 不随意運動
5. 腱反射低下

問題87 右半球の損傷で生じやすいのはどれか。2つ選べ。

1. 失読
2. 失算
3. 着衣失行
4. 手指失認
5. 半側空間無視

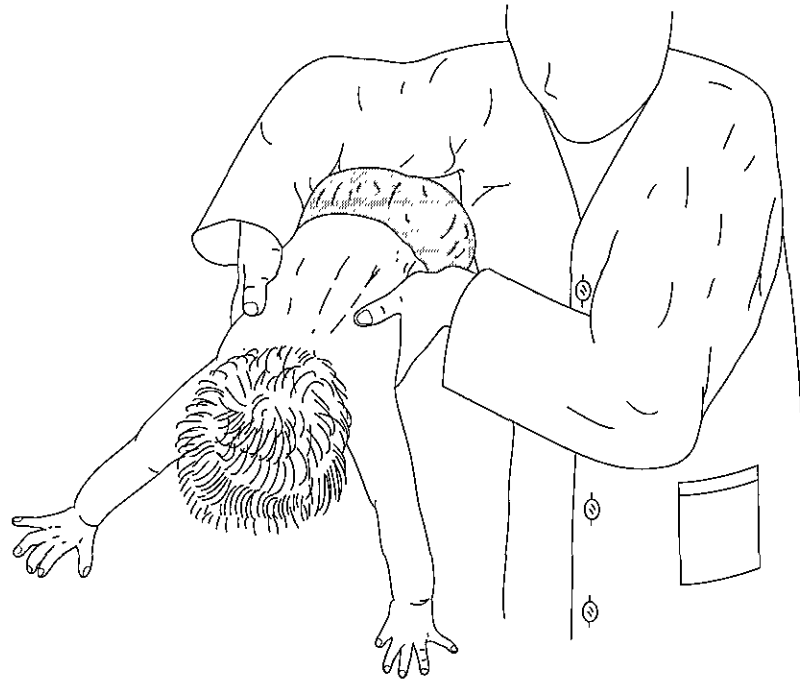
問題88 脳梗塞の原因で誤っているのはどれか。

1. 心房細動
2. もやもや病
3. 心臓弁膜症
4. Buerger(バージャー)病
5. 頸動脈粥状硬化

問題89 直射日光下で訓練してはならない疾患はどれか。

1. 色素性乾皮症
2. 筋ジストロフィー
3. Down(ダウン)症候群
4. 骨形成不全症
5. Marfan(マルファン)症候群

問題90 小児を急に頭の方から前方に倒した時に、図のような反応が出現する最も早い時期はどれか。



1. 生後2～4か月
2. 生後6～8か月
3. 生後12～14か月
4. 生後16～18か月
5. 生後20～22か月

問題91 せん妄をきたすのはどれか。

1. 解離性健忘
2. パニック発作
3. ナルコレプシー
4. アルコール離脱
5. 睡眠時遊行症(夢中遊行症)

問題92 幻覚妄想症状に最も関係があると考えられている神経伝達物質はどれか。

1. アセチルコリン
2. グルタミン酸
3. セロトニン
4. ドーパミン
5. ノルアドレナリン

問題93 Alzheimer 病と比べ Pick 病で特徴的な症状はどれか。2つ選べ。

1. 失行
2. 人格変化
3. 滞続言語
4. 記銘力障害
5. パーキンソニズム

問題94 アルコール依存に関連が少ないのはどれか。

1. ペラグラ脳症
2. Wernicke(ウェルニッケ)脳症
3. Liepmann(リープマン)現象
4. Korsakoff(コルサコフ)症候群
5. ミュンヒハウゼン症候群

問題95 統合失調症で現れにくいのはどれか。

1. 関連性を欠いた会話
2. 夜間の意識変容
3. 持続的な支配観念
4. 過敏な聴覚
5. 両価的な感情

問題96 うつ病患者の訴えで少ないのはどれか。

1. 「頭が締めつけられる」
2. 「決められない」
3. 「いらいらする」
4. 「迷惑をかけている」
5. 「周りが恐ろしい」

問題97 厳粛な場所で「バカヤロー」と叫んでしまわないか、繰り返し気にしている患者の病態はどれか。

1. 広場恐怖
2. 社会恐怖
3. 解離性障害
4. 身体化障害
5. 強迫性障害

問題98 外傷後ストレス障害(PTSD)の症状で誤っているのはどれか。

1. 思考途絶
2. 知覚過敏
3. 集中困難
4. 不安焦燥
5. 睡眠障害

問題99 心理的発達の障害に分類されるのはどれか。

1. 抜毛症
2. 学習障害
3. チック障害
4. 分離不安障害
5. 非器質性遺尿症

問題100 小児の精神障害で正しいのはどれか。

1. 多動性障害は女児よりも男児に多い。
2. 選択性緘黙は言語理解の障害を伴う。
3. 吃音は複雑性音声チックに分類される。
4. 乳児期の虐待は自閉症の原因となる。
5. 周産期の脳損傷は Down(ダウン)症の原因となる。









